



令和5年度 西都市立茶臼原小学校便り

# 茶臼原小通信 7月号

文責 長友 裕之

進んで学び 心豊かで  
元気な児童の育成

進んで学ぶ子 心豊かな子 元気な子

## 1学期も残りわずかになりました。

私は、4月から通勤をするようになり（昨年までの学校は、敷地内に住宅がありました）、幾度となく、スマホや水筒、ハンカチを忘れて困った経験があります。

忘れものが多い児童がいたとします。今日も、体育があるのに、体育着を玄関に置き忘れていた。そんなとき、私たち大人は・・・

「どうしてあなたはいつも忘れるの!」とつい怒ってしまいます。そのうち、「何回言ったら分かるの!」と脅してみたり、「そんなだらしのない子は、ちゃんとした大人になれない!」と呪いをかけてみたり、「今度忘れものしたらおやつ抜き!」と罰を与えてみたり・・・

でも、それで忘れものをしなくなったという話、実はあまり聞きません。

忘れものをした子どもは「どうして」と言われても、忘れたから忘れたのであって、理由なんて答えられません。この「どうして」とか「なんで」という問いかけは、過去の原因を追及する言葉、つまりマイナスの言葉かけになります。言われた側は責められ、否定されたと感じ、言い訳を考え始めます。

じゃ～、なんて言えばいいの?

「して」を「すれば」に変えるんです。これが、最適解だと思います。

「どうしていつも忘れものするの!」から、「どうすれば忘れものをしなくなるの?」と聞くということです。

「どうすれば」というのは、未来に向かって解決を促す質問です。すると、頭の中では自動的に「どうしたらいいのかな」と考えはじめます。思考力を育てるチャンスです。

具体的な方法を考えられるように促し、自分で決めたら（判断力）、それを言葉にする（表現力）、そして自分で工夫して決めたことはやる可能性が高い（主体性）、こうした試行錯誤が、自己肯定感を高め、よりよい自力解決ができていくのだと思います。

子どもに解決策を考えさせるには、私たち周囲の大人の粘り強い忍耐力が必要です。この解決を促すアプローチ（以前お話しした、学校と家庭のセリフを揃えましょう「どうしたの」「どうしたいの」「〇〇なら手伝えるけど」も含めて）をしないとしないのとでは、必ずや大きな差になると思います。

私はというと、出かける前にリュックの中をのぞき込みながら、『財布、ハンカチ、スマホ、水筒』と呪文のように自分に言い聞かせながら確認するようになりました。

## 順調です。

5月9日と14日に植えたイモ、そして、6月9日に植えた稲、ともに、順調に育っています。

ご協力、ありがとうございます。足を運んだ分だけ育つと聞いたことがあります。収穫が楽しみです。



## 7月の行事予定

- 3日（月） 登校班ノート記入・集金週間
- 18日（火） 夏休み図書貸し出し
- 20日（木） 1学期終業の日
- 21日（金）～8月24日（木） 夏休み
- 31日（月） かがやきスクール  
◎妻高校生が、約20人来てくださる予定です。

## 雑感

先生方の勉強会です。キュビナを1単位の時間、1単元のどこでどのように使うのかの意見交換の様子です。素敵な姿です。

